

「日韓友情年2005」実行委員会企画事業「日韓交流 おまつり」レポート

9月24日土曜日、ソウル特別市鐘路(チソ)区の大学路(テソ)において、「日韓友情年2005」実行委員会主催による「日韓交流 おまつり」が開催され、日韓あわせて37団体、計1900人が出演し、集まった観衆は約5万人と、当初の予定を上回る人出となりました。これほどの規模で、日韓のお祭りが韓国で行われたことはこれまでになく、この事業の成功は、日韓間で若い人達を中心とした交流が確実に広がっていることを示すものといえ、今後に大きな期待を抱かせるものとなりました。



大勢の観客で埋め尽くされたメインステージ



よさこいアリラン(ソウルジャパクラブ)

さらに当日は天候にも恵まれ、心地よい秋風の吹く大学路の街は、この多くの芸能団体、お祭り団体の色鮮やかな服装とその華麗な演技に魅せられた観衆の大きな拍手と声援に埋め尽くされました。

1. メインステージ



下蚊屋荒神神楽保存会 明神社

メインステージは大学路の4車線を塞ぐ形で設けられました(大学路は4車線と2車線の計6車線の通り)。14時30分からのオープニングでは、日本側の実行委員会を代表して依田巽(よだ・たつみ)実行委員、韓国側の諮問委員会を代表して崔相龍(チェ・サンヨン)諮問委員長による挨拶があり、これに引き続き、日本から出演した下関市の平家踊りや鳥取県の荒神神楽、韓国からのファンヒコリア(扇の舞)といった新旧様々、個性豊かな演目が披露されました。

2. パレード

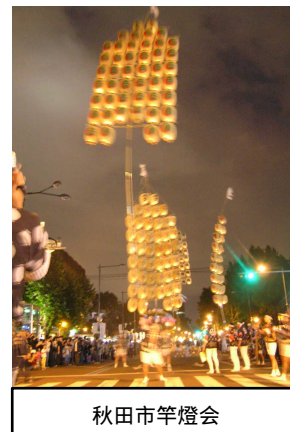
メインステージ終了後の17時30分からは、日韓の様々な団体によるパレードが行われ、日本側から秋田県の竿燈や青森県のねぶたなどの計9団体が、韓国側からは霊山大学のサムルノリや鳳山(ボンサン)タルチュムなどの計13団体が出演し、それぞれのパフォーマンスを繰り広げながら、約700メートルの会場を練り歩きました。



ポドデサンとスラクン



青森ねぶた



秋田市竿燈会